

「書く力」を、ぐん！と伸ばす

令和六年度版『書写』教科書のご紹介

山梨大学名誉教授

宮澤正明

楽しく学んで「書く力」をぐん！と伸ばす、新しい『書写』教科書が完成しました。
代表編集委員の宮澤正明先生に、新しい教科書のおすすめポイントについて語っていただきます。



① はじめに

書写の学習では、文字の整え方を学ぶことを目的としますが、文字を書くことは、その学習過程で「思考力」「集中力」「伝達力」を育てることにつながります。どれだけ他者を意識して書くか、「相手意識」をもって考えるプロセス自体が書写学習の意義であり、教科の枠を超えて、現代社会で必要不可欠なコミュニケーション力の土台ともなります。子どもたちも「正しく整った文字を書くことができるようにしたい」と願っています。編集委員として、これらの期待に応えられる新しい書写の教科書を目指しました。

●書く楽しさが感じられる学びを

新版の編集にあたっては、子どもたちの意欲を喚起する紙面や学習活動を位置づけるのはもちろんのこと、「何を学ぶのか」「何ができるようになったのか」が明確にわかる構成としました(※1)。子ども自身が主体的に考えて取り組み、力を発揮し、何かが身についたときに得られる充足感や達成感、つまり書くことの「楽しさ」が実感できる教科書ができたのではないかと思います。

●新設ページ

——スタートブック・書きぞめ

書写学習と毛筆学習が始まる際の基礎・基本を網羅し、子どもが主体的に取り組めるよう、一年と三年の巻頭に「スタートブック」を新設しました(※2・3)。

また、新たな学習内容として学習指導要領解説に加わった「書きぞめ」に特化したページを設置しました。書くときに気をつけるポイントを示し、毛筆・硬筆両方の字例を取り上げています。紙面上のQRコードからは、各地の書きぞめ大会の様子を見ることが出来ます。

1952年、静岡県生まれ。光村図書 小・中学校『書写』教科書の代表編集委員を務め、教材文字の執筆も担当。平成29年学習指導要領改訂に関する、中央教育審議会 国語ワーキンググループ委員などを歴任。著書に『新・字形と筆順』(光村図書)、『美しい毛筆の書きかた』『常用漢字 書きかた字典』(二玄社)など。



▲※1 1年p12-13



▲※3 3年p2-3「毛筆スタートブック」(p1-13)



▲※2 1年p4-5「しよしゃすたーとぶっく」(p1-11)



▲※5 動画「書き方を見てみよう」

▲※6 アニメーション「かきじゅんのひみつ」

▲※7 動画「しゅしゃたいそう」

▲※8 動画「編集委員メッセージ」

▲※9 全国書きぞめマップ

③ デジタル端末で効果的な学習に

文部科学省が進めている、「GIGAスクール構想」により、学校現場では急速にICT化が進みました。光村の新しい教科書でも、デジタル端末で効果的に学習を進められるよう、さまざまなコンテンツを用意しました。

教科書紙面にQRコードがある教材では、スマートフォンやタブレットを使って、豊富な参考資料を閲覧できます。上からと下からと二つのアングルで筆使いを確認できる「書き方を見てみよう」(※5)、「しゅしゃたいそう」(※7)、などの動画資料や、「全国書きぞめマップ」(※9)「全国筆・紙・すみ・すずりマップ」などの写真資料、授業の導入で役立つアニメーション(※6)など、大充実の内容です。授業の幅がぐんと広がります。

さらに、子どもたちがそれぞれの端末を使用すれば、自分が書いている姿を撮影したり、写真に気づいたことを書き込んで保存したりできます。実は、書写はデジタルと親和性の高い教科と言えるのです。



▲※4 3年p30-31



たいせつ
(学習のポイント)

学習の進め方
硬筆欄を増設

② 学ぶことがひと目でわかる

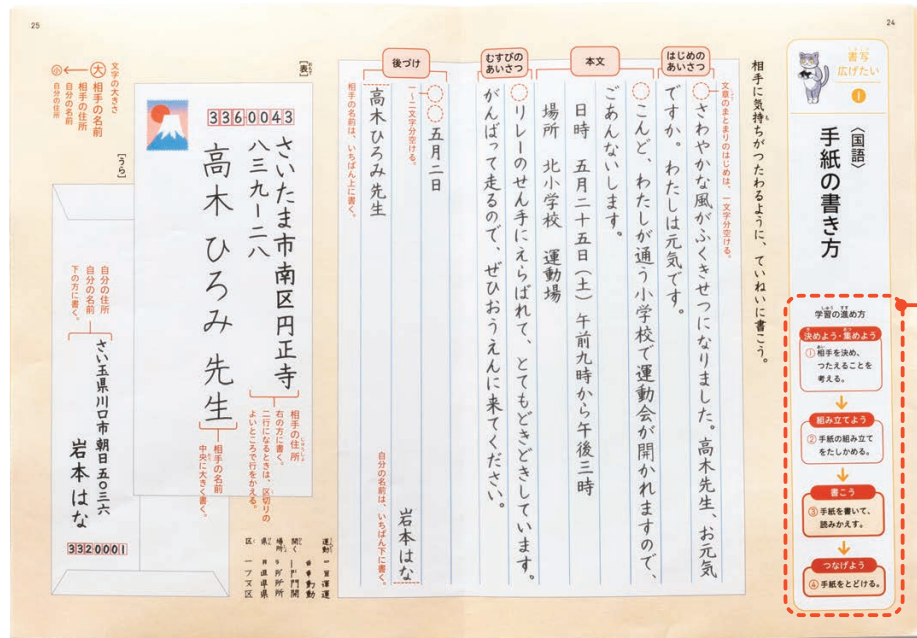
限られた授業時間の中では、学習を効率よく進めていくことが求められます。子どもにとっても、「あれもこれも」と一度に多くのことを学習するのは難しいでしょう。ですから、発達の段階に応じ、学習要素を焦点化する必要があります。

新しい教科書では、一教材一目標とし、学習を通して身につける力を教材名としています。その教材で扱う要素を焦点化することで、学習のねらいが明確になり、効果的に力をつけることができます。

例えば、三年では基本点画の書き方を学びますが、二(横画) ↓ 土(横画・縦画) ↓ 日(横画・縦画・折れ)のように、スムーズなステップを積み重ねる構成としています。また、「考えよう」(原理・原則を理解する)、「確かめよう」(毛筆で確かめ、技能を習得する)、「生かそう」(硬筆で技能を定着させる)という流れで構成しているため、先生にも子どもたちにも何を学ぶかわかり、学習効果の高まりが期待できます。さらに、硬筆欄を増設したことで、学習内容をしっかりと定着させることができます(※4)。



▲※14 4年p21・22-23「SDGsブック」(p21-24)



▲※10 3年p24-25



▲※13 6年p22-23「書写ブック」(p21-28)



▲※12 2年p24



▲※11 1年p1

国語教科書と、
学習内容・題材・学習時期を
合わせています。

「書写で学んだことが役に立った」と実感し、子どもたちには書くことを楽しんでほしいと思います。新しい教科書を使って、そんなふうに子どもたちの書く力を育てていただけたら、こんなにうれしいことはありません。

●今日の課題との関連
新しい教科書では、「書写×SDGs」として、書写でできるSDGs達成に向けた取り組みを提案しています。
四年生には、「SDGsブック」を新設し、リサイクル半紙を使った取り組みなどを紹介しています(※14)。「SDGsブック」は、森林を保つために切った「間伐材」を利用して作られた、光村図書オリジナル用紙「光村間伐マット」を使用しており、それ自体が環境に配慮されています。また、各学年でも用具を大切に使うことを呼びかけています。

●今日の課題との関連
六年生では、六年間で学習する書写の要素をまとめた「書写ブック」を設け、書写の学習で身につけた力を確認し、学習や日常生活で生かせるよう配慮しています(※13)。

た(※12)。

●他教科や日常生活との関連
他教科や日常生活に生かせる力をつけることも大切です。教材として提示する語句や文章は、子どもたちの日常生活や他教科から幅広く取り上げています。
日常生活で書く場面が多いのは、自分の名前です。書写の学習がスタートする一年生では、学年の初めと終わりに自分の名前を書き、比較できるページを設けました(※11)。
また、デジタル端末の普及によって、横書きをする場面も増えています。新しい教科書では、横書きの書き方も充実させまし

●国語教科書との連携
書写は、学習指導要領においては、国語科の中に位置づけられているので、国語との連携は特に大切にしたいところです。新しい教科書には、光村図書『国語』教科書と連携させて使うことができる教材が各学年に用意されています(※10)。書写は、言語に対する感覚を養う学習の場であってほしいのです。

4 書写の力が日常に広がる

「書写広げたい」として、他教科や日常生活に関わる運動教材を多数用意しました。